

# 童話 五色の羽根

久門 嘉祐

五二

とよ子さんは、それはく〜い子です、ほんとうにい子ですよ、毎朝お時計がチン〜く〜く〜チン〜くと六つなるとお眼々をさまします、お眼目をさますとお時計がなります、いつでもお時計と競争ですよ、そしてお眼々をさますともうお床の中でぐず〜はしてゐませんよ、元氣よくつツと跳ね起き、すぐに自分で晝のお洋服と着換へ可愛いあふとんをちやんと疊んで押入に仕舞ひます、それから齒を叩嚙にみがきお顔を洗ひます、それからお米を一つまみつまんでお座敷のお縁に出てお庭に其のお米をまきます、それは年がら年中毎朝〜これだけのことは、もうさまつてするのです、すると方々からチユン〜雀がやつて来て

其のお米をいたゞいて喜んで遊んで歸るのであります、初は二三羽でしたが段々にふえて五羽に十羽になり十五羽になり二十羽になり段々に多くなりました、そしてもうとよ子さんにはよく馴れて、とよ子さんがお庭へ下りて行つても雀はちつともこわがりません一羽も逃げるものはありません、逃げるどころかとよ子さんの側にチユン〜く〜喜んでたかつて来てとよ子さんのお手々にとまるものもあります、と、或日一羽の子雀の鈴ちやんがお嬢さん〜今日は鬼ごつこをして下さいねお嬢さん。ね、お嬢さんとおねだりをしました、すると皆で鬼ごつこしませう〜、チャンケンポイヤ〜〜と大はしやぎにはしやぎ出しました、

とよ子さんがまけてしまひました……あら私鬼よ  
一つさんばらりて残鬼、と兩手を廣げ追ひ出しま  
した、雀は皆夢中になつてバツと逃げます「チユン  
チユク雀の鬼ごっこ……枝から枝へチユンチユク  
チユン屋根から屋根へチユンチユクチユン一さん  
ばらりて残鬼、チユンチユク……鬼ごっこ」と歌を  
うたひながらもう面白くく鬼ごっこをして居り  
ました、すると子雀の鈴ちやんは石につまづいて  
轉んであんよを痛くして泣き出しました、とよ子  
さんは吃驚して鈴ちやんの側に駆けよつて、まあ  
鈴ちやんわるかつたわねと抱き起し、土をはらつ  
てあげ、よく見てあげると足をすりむいて少し血  
が出てゐました、よし／＼大丈夫よ私お薬をつけ  
てあげてよ、今晚は私のお家へお泊りしませうね  
と抱いてあげました、そして他の雀は皆もう鬼ご  
っこをやめて鈴ちやんの側によつて來て心配さう  
な顔をして居ります——とよ子さんは皆さん大丈

夫よ鈴ちやんは今晚はお泊りをしてお薬をつけて  
あげますからすぐ癒つてよ、あしたの朝お迎に來  
て頂戴ね——では皆さんさうならと言ひますと  
雀達はさも安心したやうにチユンチユン飛んで行  
つてしまひました……とよ子さんは子雀の鈴子さ  
んをお手々の上へ大事に乗せてお家へ歸り綺麗な  
お籠に入れおいしい水やお米をやりお薬をつけて  
そつと寝かしました……そしてあしたの朝はいつ  
もより早く起きて子雀の鈴子さんの側へ行つて見  
ますと……鈴子さんはもう痛いところも癒つてお  
籠を出たり入つたりして元氣よく遊んでゐました  
……鈴子さんも癒つてよかつたね——もう皆さ  
んが屹度お迎に來てゐますよ、さあお庭へ行きま  
せうと雨戸を開けて上げました……すると子雀の  
鈴子さんは喜んでお庭へ飛んで行きました……皆  
の雀はもう朝早くからお庭へ來て待つて居りまし  
た、そこへ鈴子さんが元氣よく出て行つたもの

すから、皆喜びました、そして今日もち米をいただいて面白さうに庭を飛びまわつて遊びました……そしてさようならをして皆々飛んで行つてしまひました……とよ子さんは昨日怪我をした鈴子さんも皆と一しよに元氣よく飛んで行くのを喜んで少時見て居りました……そしてもう雀の姿が見えなくなつたとき其の雀の飛んで行つた方から赤い綺麗な羽根がクル／＼廻りながらとよ子さんの方へ飛んで來ます、とよ子さんは、あら綺麗な羽根が、と見て居りますと又つゞ青い羽根が……アラ今度は青い羽根……アラ今度は黄色の羽根……アラ今度は紫今度は緑と五色の羽根がクル／＼廻はつてとよ子さんの方へ飛んで來るのであります。

とよ子さんはアラ綺麗／＼と夢中になつてちつと見て居りました、すると一番先の赤い羽根がとよ子さんのお手々の上へポットンと落ちま

した次は青い羽根がポットン、次は黄色の羽根が次は紫の羽根が次は緑の羽根がポットン／＼と手の上へ五色の羽根がそろひました……とよ子さんはもう嬉しくて／＼たまりません。早速それで五色の羽根をこしらへ羽子板を頂くとすぐにお庭へ出て一イヤ二イヤ三イヤ四イヤ五イヤ六イヤ八一九ヤ十……と突いて見ました、する五色の羽根がクル／＼廻はつてそれは／＼綺麗に／＼よくあがります——ところが一番おしまひに突いたのがクル／＼廻はつて雲の上までまだ／＼ずん／＼上へあがつてそれからだん／＼向ふの方へ飛んで行きます……とよ子さんは吃驚して其のまゝ羽根のあとを追うて行きました……山を越え、も一つ山を越えて向ふの大きな／＼お城のお庭へクル／＼まわりながら五色の羽根は落ちました……すると御殿のお姫様がそれを御覽になり、けらいに言ひつけて拾つて來させて、突いて御覽

になりました……けれども羽根は少しも上りませ  
ん。お女中がついてもばあやがついても誰がつい  
ても少しも上りません……お姫さまはワン／＼泣  
き出しました……どんなに御機嫌をとつても泣き  
止めませんから皆で大層心配をして居るところへ  
……とよ子さんが御門番に頼んでお城のお庭へ羽  
根を拾ひに参りました……すると大勢の女中がと  
よ子さんの側にかげよりあの羽根はあなたのです  
か……今お姫様があの羽根が大層お気に入り、早  
速ついで御覽になりましたが、少しも上りません  
……それから私たちが代る／＼ついで見ましたが  
矢つ張り少しも上りません……それでお姫様とう  
とうお泣になり、色々とよつてたかつて御機嫌を  
取りますが矢つ張りあれあのやうに泣いてゐらつ  
しやるのです……どうぞあなた急いでついでお見  
せして下さいませと皆して頭を下げて頼みます……  
……とよ子さんは早速五色の羽根をいたゞいて一

ヤ二一三ヤ四とつきました、クル／＼／＼まわ  
つてそれは／＼綺麗に上ります。それをお姫様が  
御覽になると今迄もう破れるやうに泣いてゐらし  
つたお姫様はちやつくり泣き止めてニコ／＼顔に  
なりお手々をたゞいてお喜びになりました……そ  
れからお姫様が代つておつきになりました……今  
度はとよ子さんがつくと同じによく上りまし  
た。そこでとよ子さんは其の羽根をお姫様に差上  
げてお暇をしました……とよ子さんは山のやうに  
御褒美を頂き立派な立派なお馬車でお家へ戻りま  
したとさ。おしまひ

